

# 広島市の第4次基本計画についての調査検討

02A3749 山崎 直一  
指導教員 片山 正敏

## 1. はじめに

都市計画を企画する場合、その指標となる条項を調査し将来の発展を予測し正しく誘導されていくようにする。その上で都市にはその都市の個性ともいふべきものがあるのでそれを十分に生かせる企画がされることが望まれる。それには住民意識と地域の特性を都市計画に反映するような配慮がなされていることが必要となる。

本卒業研究では、広島市の第4次基本計画について取り上げ、上記の観点から検討し、改善策として提案することを目的とする。

## 2. 広島市の第4次基本計画の概要

### (1) 広島市の現状および目標

現在の広島市の人口は、約1,145,000人である。高齢化率は16.5%となっており、平成19年には17.5%になると予想される。広島市の主な取り組みとして、①清風新都市の建設(本市の都市構造を一点集中型から多心型に変えることで10万人規模の複合的な都市拠点を市民・行政・事業者で建設する取り組み)、②広島駅周辺地域の市街地整備の推進(本市の都心である広島駅周辺地域に、広域交通結節点である特性を活かした都心機能の充実・強化を図る)、③水の都市ひろしま(水辺等における都市の楽しみ方の創出、都市観光にふさわしい風景づくり)等が挙げられる。あと、国際平和文化都市づくりとしては、地球上のあらゆる生命が良好な環境の下で平和のうちに共存できるよう、国際社会においてできる限り貢献していくことを目指している。国際化、高度情報化、価値観の多様化など新しい時代の潮流に的確に対応するため、都市機能の充実と都市環境の整備を図り、都市像として掲げる国際平和文化都市を実現するためのまちづくりを進めている。

### (2) 検討項目(私案として)

広島市の高齢化に対し、福祉施設等に力を入れると同時に、学校での授業やフラワーフェスティバル等イベントを通じて老人とのコミュニケーションが

必要だと思われる。そうすることにより、今まで以上に高齢化問題に対して幅広い年齢層で関心を持つことが可能になってくるであろう。

環境問題に対しては、これからの市民の大量生産・大量消費・大量廃棄型等を見直す取り組みと、生活するうえで必ず排出されるごみをいかに分別・処理するかが重要であると思われる。

これらを通して考えてみてわかることは、一人ひとりの自覚、意識の持ち方が大切だということである。それを本市が市民に呼びかけていくこと、また、本市がそれらを率先して実行し、市民との信頼関係を築けていけるかが大切になってくるであろう。

## 3. 高層ビルごみ分別搬送システムの提案

これからの住まいや勤務先として、高層建物はさらに増えると予想される。図-1のような上層階にあるごみを簡単に処理・分別する方法として高層ビルごみ分別搬送システムを提案する。

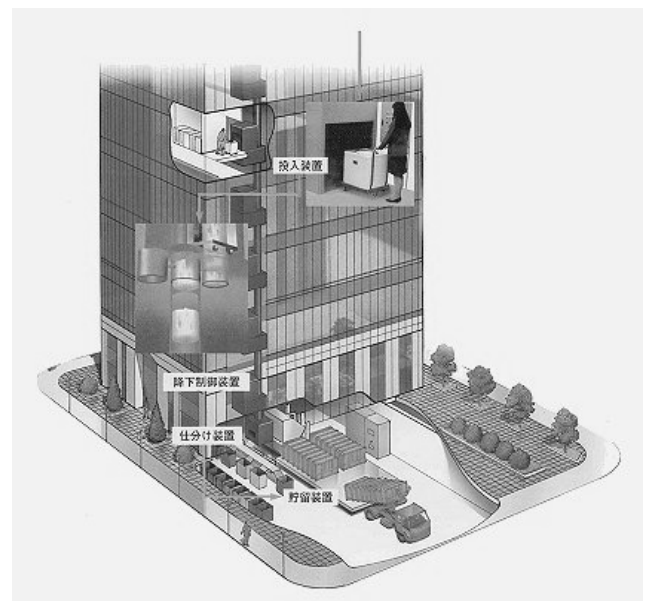


図-1 搬送システムの一例

内容は、作業員が各階のごみをコレクタ毎に分別収集し、投入装置にセットする。不要品を分別し、リサイクルボックスに入れる。リサイクルボックスの台車を投入装置にセットし、ポリ袋でカプセル化

した後、投入指示する。なお、リサイクルボックスには台車を付けることで、簡単に投入室に運べる。カプセルは入手が容易で安価なポリシートを使用しているためランニングコストは少なくてよい。垂直輸送は重力を利用して降下させるため動力は不必要である。また、高速で降下させるため輸送時間を大幅に短縮し、オフィスから出る大量のごみも短時間で処理できる。大きすぎる投入物等を、無理矢理カプセルに詰め込む（禁止作業）などにより、万一カプセルがシュート内に詰まった場合、閉塞を自動検知してバラストを落下させ、カプセルの詰まりを解消する。このシステムを導入することで、処理方法や分別作業が容易化され则认为る。

#### 4. 福祉家具システムの提案

現在、従来の複数人生活の病室型から、個室化・個別対応化による自立推進型ケアへの移行が進んでいる。こうした背景に対して、フレキシブルな空間構成が可能で、耐久性・安全性を有し、使用・再利用・再資源化の自由度が高い福祉家具の開発が求められている。その例として、図-2のような家具システム導入を提案する。



図-2 福祉家具システムの一例

現在、4人部屋をカーテン、間仕切り家具などで分割し個々のスペースを確保しているが、各生活者の症例によっては複数の介護機器が配置され、ヘルパーの介護作業用に十分なスペースが確保されていない場合も多い。こうした点に配慮したレイアウト変更が容易な間仕切り家具が必要である则认为る。

また、アレルギー、集団院内感染、塗装保護剤や洗浄剤に含まれる環境ホルモンなども深刻な問題であり、従来よりも研究されているホルムアルデヒド対

応に加え、耐薬品性、抗菌性塗料の検討も盛り込み、衛生面からも快適な間仕切りが必要だと考える。

#### 5. オストメイト対応トイレ設置の提案

オストメイト対応トイレを広島駅構内に設置することを提案する。オストメイトは、人工肛門、人工膀胱などを造設しているため、排泄機構が変わるが、排泄物の管理方法を習得することにより、日常生活は手術前とほとんど変わらずに過ごせる。しかし、外出先での排泄処理の困難およびトラブルの発生を恐れて悩んでいる人が多いといわれている。広島駅周辺地区には、官公庁施設、社会福祉施設、教育文化施設などが多数立地している。特に北口地区には、広島市中心身障害者福祉センターや児童療育指導センターなどの社会福祉施設が集中しており、相当数の障害者の利用がある。洗面器の設置してある身障者トイレであれば、パウチの排出処理と手洗いを同一ブースで行うことができる（パウチ（ストーマ袋）とは、ストーマから排泄される便や尿を受けとめる袋のこと）。そして次の項目を考えて設置することで、より快適になると思われる。

- ①入室のしやすさについては、トイレの設置場所がわかり易いこと・プライバシーが守られること、
- ②脱衣について、手荷物や脱いだ衣類を置く十分な広さの棚の設置・冷暖房設備のあること、
- ③トラブル対応準備について、便器の近くに洗面器の設置・手が汚れた場合のため、洗面器に自動水栓の設置および殺菌用水、石鹼入れの設置、
- ④排出処理について、便器の回りに排出処理が自由にできるスペースの確保、
- ⑤後処理は、汚物入れ（脱臭機能付）を設置し廃棄する。両手使用のため、便器に自動洗浄弁の設置、便器回りの可動手すりを回転し、排出処理が自由に行えるスペースの確保。

また、ベビーシート等を設置することにより妊婦、乳児連れの人なども利用でき、多目的（多機能）トイレを形成することが可能である。そうすることで、様々な人に対して便利なものになるだろう。

#### 6. まとめ

今回の研究では、高層ビルごみ分別搬送システム、福祉家具システム、オストメイト対応トイレ設置について検討・提案した。